

Title	柳沢遊略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.83 (2017.) ,p.47- 53
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000083-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧

柳沢 遊 (やなぎさわ あそぶ)

学歴

1970年	東京都立上野高等学校卒業
1971年	東京大学教養学部文科Ⅱ類入学
1973年	東京大学経済学部進学
1976年	東京大学経済学部卒業
1978年	東京大学大学院経済学研究科博士課程進学
1982年	東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

学位 1978年3月 東京大学大学院経済学研究科修士号

職歴

1983年	日本学術振興会奨励研究員 (1982年4月-83年3月)
1983年10月	久留米大学商学部専任講師 (経済史)
1986年11月	東京農工大学工学部 (一般教育部) 助教授 (経済学担当)
1994年 4月	慶應義塾大学経済学部助教授 (日本経済史担当)
1998年 4月	慶應義塾大学経済学部教授
2009年 7月-12月	韓国釜山大学校人間文化研究所客員教授
2014年 4月	慶應義塾大学大学院社会学研究科委員を兼任。現在に至る

非常勤講師歴

1994年	東京経済大学非常勤講師「日本経済史」担当
1994年	東京農工大学工学部 (一般教育部)「経済学」担当
2000年	名古屋大学大学院経済学研究科非常勤講師「日本経済史」担当
2001年	明治学院大学経済学部非常勤講師「日本経済史」担当
2005年	千葉大学文学部非常勤講師「情報社会史」担当
2006年	東京国際大学非常勤講師「日本経済史」
2010-11年	早稲田大学大学院文学研究科非常勤講師「日本史特論」担当
2015年 4-9月	津田塾大学国際関係学科「日本経済史」担当

受賞 2000年中小企業研究奨励賞, 2000年慶應義塾賞

研究業績

①単著

- ・『日本人の植民地経験—大連日本人商工業者の歴史—』青木書店, 1999年
- ・『貝原収蔵日記—在華日本人実業家の社会史』柏書房, 1992年 (日記翻刻と「解題」執筆)

②共編著

- ・『帝国主義と植民地』(岡部牧夫との共編)東京堂出版, 2001年
- ・『戦時下アジアの日本経済団体』(木村健二との共編)日本経済評論社, 2004年
- ・『満鉄の調査と研究—その「神話」と実像』(松村高夫・江田憲治との共編)青木書店, 2008年
- ・『高度成長の時代』1巻-3巻, (大門正克・大槻奈巳・岡田知弘・佐藤隆・進藤兵・高岡裕之との共編)大月書店, 2010-2011年
- ・『日本帝国圏の東アジア都市経済』(木村健二・浅田進史との共編)慶應義塾大学出版会, 2013年
- ・『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』(今泉裕美子・木村健二との共編)日本経済評論社, 2016年

③論文

- ・「1920年代『満州』における日本人中小商人の動向」(『土地制度史学』92号, 土地制度史学会, 1981年7月)。1-18頁
- ・「奉天における「奉天票暴落」問題と「不当課税」問題の展開過程」東京大学経済学研究会『経済学研究』第24号, 1981年12月, 48-59頁
- ・「『満州事変』をめぐる社会経済史研究の諸動向」『歴史評論』377号, 1981年, 50-59頁
- ・「1920年代前半期の青島居留民商工業」(『産業経済研究』25巻4号, 久留米大学産業経済研究会, 1985年3月, 111-152頁)
- ・「1910年代日本人貿易商人の青島進出」『産業経済研究』27巻1号, 久留米大学産業経済研究会, 1986年6月, 203-239頁
- ・「貝原収蔵日記抄(一)—在華日本人実業家の社会史—」『東京農工大学一般教育部紀要』25巻, 1989年3月, 1-17頁
- ・「貝原収蔵日記抄(二)—在華日本人実業家の社会史—」『東京農工大学一般教育部紀要』26巻, 1990年3月, 29-39頁
- ・「商工組合中央金庫の設立と活動」伊牟田敏充編著『戦時体制下の金融構造』日本経済評論社, 1991年3月, 第3部第3章(379-414頁)
- ・「西武百貨店の経営近代化」由井常彦編『セゾンの歴史 上』リプロボート, 1991年6月, 73-226頁
- ・「大連商業会議所常議員の構成と活動—1910~20年代大連財界変遷史—」大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社, 1992年6月, 301-358頁
- ・「近代日本における『国際化』の検証—日露戦争後日本人の『満州』進出と居留民社会論—」尾関周二他編『国際化時代に生きる日本人』青木書店, 1992年, 121-152頁
- ・「中小企業の政策」通産省・通商産業政策史編纂委員会『通商産業政策史 第1期 戦後復興期』通商産業調査会, 1992年, (第4章第4節「中小企業の政策」613-709頁を分担執筆)
- ・「『満州』商工移民の具体像—日露戦後の満州渡航事情—」『歴史評論』第513号, 歴史科学協議会, 1993年1月, 42-53頁
- ・「第二部 貝原収蔵日記解題」柳沢遊編著『貝原収蔵日記—在華日本人実業家の社会史—』柏書房, 1993年, 576-623頁
- ・「榎谷仙次郎—「満州」土木請負業者の世代交代」竹内常善ほか編著『近代日本の企業家の諸系譜』大

阪大学出版会, 1996年, 238-276頁

- ・「戦時労働力の給源と動員—農民家族と都市商工業者を対象に一」（大門正克と共著）『土地制度史学』151号, 1996年, 38-45頁を分担執筆, 28-30頁, 46-47頁を共同執筆。
- ・「満洲における商業会議所連合会の活動」波形昭一編『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版, 1997年, 91-113頁
- ・「在「満州」日本人商工業者の衰退過程: 1921年大連商業会議所会員分析」『三田学会雑誌』92(1), 慶應義塾経済学会, 1999年4月, 47-80頁
- ・「青島居留民団における低利資金問題の展開」日本植民地研究会『日本植民地研究』13号, 2001年6月, 1-18頁
- ・「帝国主義 帝国主義と在外居留民—「帝国意識」とその社会的基盤（特集 帝国—グローバリゼーションへの新視角）」『現代思想』29(8), 2001年7月, 152-162頁
- ・「戦後復興期の中小商工業者」原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版会, 2002年, 313-345頁
- ・「大連埠頭」松村高夫ほか編『満鉄労働史の研究』日本経済評論社, 2002年, 250-284頁
- ・「日本帝国主義の「満洲」支配史研究」田中明編著『近代日中関係史再考』日本経済評論社, 2002年, 19-41頁
- ・「侵略の社会的経済的基盤」石井寛治ほか編『日本経済史 3両大戦間期』東京大学出版会, 2002年, 367-378頁
- ・「現代日本のネオ・ナショナリズム: 受容基盤との関連を中心に」安田浩ほか『ポリテイク 特集 新自由主義国家とネオ・ナショナリズム』4号, 旬報社, 2002年, 238-247頁
- ・「川口市—新興工業都市の事例研究Ⅱ—」（大石嘉一郎・金澤史男編著『近代日本都市史研究—地方都市からの再編成—』, 日本経済評論社, 2003年2月), 577-619頁
- ・「日本経済と戦争—満州事変期を中心として—」大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどう見るか〈戦争と現代〉③』, 大月書店, 2004年2月, 199-246頁
- ・「大連商工会議所から関東州経済会へ」『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社, 2004年, 135-174頁
- ・「序章」（木村健二と共著）『戦時下アジアの日本経済団体』1-9頁
- ・「1940年代初頭大連日本人個人経営者の経歴について」『経済学研究』70巻4・5号, 九州大学経済学会, 2004年4月, 1-23頁
- ・「戦時体制下の流通統制—1937~1945」（石井寛治編『近代日本流通史』, 東京堂出版, 2005年9月), 90-119頁
- ・「講演 日本帝国主義史研究の現段階—1930年代帝国主義の中国侵略と経済団体—」『地域と経済』, 札幌大学経済学部附属地域経済研究所, 2006年3月, 65-84頁
- ・「東京における中小商業企業整備」原朗・山崎志郎編著『戦時日本の経済再編成』, 日本経済評論社, 2006年3月, 265-292頁
- ・「1930年代大連の工業化」『三田学会雑誌』101巻1号, 2008年4月, 149-179頁
- ・「変容する市場と特産物—大豆三品の流通・生産調査—」松村・柳沢・江田編『満鉄の調査と研究—その「神話」と実像』青木書店, 2008年, 第3章, 186-226頁
- ・「序章 満鉄の調査研究活動の問題性と本書の立場」（松村高夫・江田憲治と共著）同上書, 1-24頁
- ・「満鉄傘下企業の設立—1920-30年代を中心に」（岡部牧夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社, 2008年) 165-205頁

- ・「日本人の居留民社会」(『東アジア近現代通史 3世界戦争と改造』岩波書店, 2010年, 275-296頁)
- ・「首都圏の経済変貌—商工業の発展と中枢管理機能集積地の出現」大門正克ほか編『高度成長の時代 1復興と離陸』大月書店, 2010年, 107-156頁
- ・「[鮮満一体化]構想と寺内正毅・山県伊三郎」国立民俗博物館編『[韓国併合]100年を問う』岩波書店, 2011年, 54-65頁
- ・「衣料品問屋の盛衰—東京の紳士服製造卸売業者を中心に—」原朗編著『高度成長展開期の日本経済』日本経済評論社, 2012年, 第7章, 191-231頁
- ・「工業都市大連の形成過程」柳沢・木村・浅田編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應大学出版会, 2013年, 第5章, 155-194頁
- ・「序章 本書の目的と東アジア都市史研究の動向」柳沢・木村・浅田編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会, 2013年, 1-16頁
- ・「高度成長期の衣服産業の展開—東京立地ワイシャツ製造卸業者の群像—」『同時代史研究』第6号, 2013年, 3-21頁
- ・「学問的論争と歴史認識—小林英夫・福井紳一氏の「批判」によせて」(江田憲治・伊藤一彦との共著)(京都大学大学院人間・環境学研究科『社会システム研究』第17号, 2014年3月)179-203頁
- ・「都知事選挙からみえる政治意識の流動性」基礎経済科学研究会『経済科学通信』136号, 2015年1月, 32-35頁
- ・「一九四〇年代後半期大連営業業者の職業「復帰」今泉・柳沢・木村編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』日本経済評論社, 2016年, 295-323頁

④報告書

- ・「台東区商工業の歴史的展開過程」(大石嘉一郎・大岡聡との共著)東京自治問題研究所『変貌する台東—再生の進路を探る—』1988年8月, 「小売商業と商店街」62-77頁を分担執筆。
- ・「日露戦後日本人商人の対「満州」進出—大連商業会議所常議員の進出経緯—」谷喬ほか編『工業技術の発達と社会の変貌—近代日本における技術移転と国際比較—』平成元年教育研究特別経費による研究報告書, 東京農工大学, 1990年, 68-91頁
- ・「東京への企業・人口集中と地域変動—高度成長期—」千野陽一・高橋明善他『国際化時代の大都市問題』東京農工大学, 1991年3月, 1-43頁
- ・「戦前期日本の勢力圏への商工移民—『満州』・中国都市への移民を中心に—」『ユーラシアと日本:境界の形成と認識—報告書—』人間文化研究機構連携研究, 国立歴史民俗博物館, 2008年3月, 52-57頁
- ・「終章 さいたま市の現状と課題」財団法人政治経済研究所『政令指定都市さいたま市の現状と展望』2006年12月, 148-155頁
- ・「大学教員はどのように余裕を失っていったか—大学生の「学力低下」の社会的背景—」高騰教育研究所編『私立大学の未来を拓く』2013年3月, 111-125頁

⑤書評

- ・「日本史研究会大会報告批判「籠谷報告によせて」」日本史研究会『日本史研究』第345号, 1991年, 58-62頁
- ・「1983年度日本史研究会大会報告批判梅本哲世報告『日本資本主義と電力』についての若干の感想」『日本史研究』第261号, 1984年5月, 51-54頁
- ・「史料・文献紹介・藤田幸一郎『狂気の近代』」花伝社, 1988年『歴史学研究』584号, 1988年9月, 63-64頁

- ・「史料・文献紹介・村川庸子『アメリカの風が吹いた村—打瀬船物語—』『歴史学研究』582号, 1988年7月, 63頁
- ・「書評・波形昭一著『日本植民地金融政策史の研究』早稲田大学出版部, 『社会経済史学』第53巻第6号, 1988年2月, 98-102頁
- ・「史料文献紹介・日本植民地研究会編『日本植民地研究』1・2号」『歴史学研究』608号, 1990年7月, 63頁
- ・「本棚・『豊かさを哲学する』を読む」東京自治問題研究所『東京』86号, 1990年2月, 26-27頁
- ・「ブックリぶろ; カレル・ヴァン・ウオルフレン『日本／権力構造の謎』上・下」, 早川書房, 1991年, 東京唯物論研究会『唯物論』65号, 1991年, 102-106頁
- ・「中村政則『歴史のこわさと面白さ』」『歴史学研究』645号, 1993年5月, 62頁
- ・「本棚・成田龍一編『都市と民衆』吉川弘文館, 1993年」『東京』136号, 1994年4月, 20-21頁
- ・「1996年度歴史学研究会大会報告批判: 小松久男・小熊英二報告批判」『歴史学研究』第692号, 1996年12月
- ・「書評・東建記念誌編集委員会編『東京をつくった話』日本経済評論社, 1998年」東京自治問題研究所編『東京研究』東信堂, 1999年5月, 249-253頁
- ・「本棚・歴史学研究会編『戦後歴史学再考—「国民史」を超えて—』」『東京』205号, 2000年7・8月号, 28-29頁
- ・「書評・曾田三郎編『近代中国と日本—提携と敵対の半世紀』」『近きに在りて』40号, 汲古書院, 2001年12月, 94~99頁
- ・「書評・『東洋拓殖会社—日本帝国主義とアジア太平洋』(黒瀬郁二著, 日本経済評論社, 2003年3月刊) (『地域総合研究』31(2), 鹿児島国際大学附置地域総合研究所, 2004年3月), 130-133頁
- ・「本棚・渡辺治編『高度成長と企業社会—日本の時代史27』」『東京』252号, 2004年11月, 34-35頁
- ・「本棚・小田実『世直しの論理と倫理 上・下』」『東京』286号, 2007年12月, 42-44頁
- ・「書評・大門正克・安田常雄・天野正子編『戦後経験を生きる』吉川弘文館, 2003年」『歴史と経済』200号, 2008年7月, 70-72頁
- ・「書評・坂本悠一・木村健二著『近代植民地都市 釜山』(桜井書店, 2007年)」『東アジア近代史』12号, 2009年, 231-233頁
- ・「本棚・金子勝・アンドリュー・デヴィッド著『世界金融危機』」『東京』298号, 2009年1月, 40-43頁
- ・「本棚・青砥恭『ドキュメント高校中退—いま, 貧困がうまれる場所—』」『東京』309号, 2010年1月, 35-37頁
- ・「本棚・渡辺治・進藤兵編『東京をどうするか—都市と環境の都市構想』」『東京』324号, 2011年5月, 39-42頁
- ・「書評・蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版, 2008年」『日本植民地研究』第23号, アテネ社, 2011年, 72-76頁
- ・「本棚・内橋克人編『大震災のなかで—私たちは何をすべきか—』」『東京』335号, 2012年6月, 34-37頁
- ・「2012年度歴史学研究会大会報告批判〈現代史部会〉—「消費者」の時代を問い直す」(矢野久と共著)『歴史学研究』900号, 2012年12月, 47-49頁
- ・「本棚・新雅史『商店街はなぜ減びるのか—社会・政治・経済史から探る再生の道—』」『東京』342号, 2013年3月, 37-39頁
- ・「書評・浅田進史『ドイツ統治下の青島—経済的自由主義と植民地社会秩序—』東京大学出版会,

2011年) (『歴史と経済』第221号, 2013年10月), 45-47頁

- ・「書評・小林元裕『近代中国の日本居留民と阿片』吉川弘文館, 2012年」(『日本植民地研究』第25号, 2013年) 108-110頁
- ・「本棚・原武史著『団地の空間政治学』『東京』356号, 2014年7月, 36-39頁
- ・「本棚・原朗著『日清・日露戦争をどうみるか』『東京』360号, 2014年12月, 42-47頁
- ・「書評・歴史学研究会編『歴史学のアクチュアリティ』東京大学出版会, 2013年」『歴史と経済』225号, 2014年10月, 38-40頁
- ・「本棚・証言記録 市民たちの戦争 1 銃後の動員』『東京』367号, 2015年8月, 38-43頁
- ・「本棚・小野塚知二編『第1次世界大戦開戦原因の再検討: 国際分業と民衆心理』『東京』362号, 2015年3月, 31-36頁
- ・「書評・石井寛治著『資本主義日本の経済構造』『歴史学研究』947号, 2016年8月号, 57-60頁

⑥その他

- ・「『日本資本主義発達史講座』刊行50年記念シンポジウム参加記』『歴史学研究』第512号, 1983年1月, 35-39頁
- ・「雑草型研究者の“低空飛行”—院生時代を語る』『全院協ニュース』1984年5月16日号, 3頁
- ・「一般教育・経済学の講義内容試論—学生の「理解感」を中心に—(経済学教育学会『経済学教育』第11号, 1992年, 25-32頁
- ・「東京農工大学における経済学講義の改善方向」一般教育学会『一般教育学会誌』第13巻第2号, 1991年11月, 85-89頁
- ・「『戦時経済源流』論をめぐって」東京自治問題研究所『東京』150号, 1995年7・8月, 16-17頁
- ・「戦時日本社会論の諸相』『東京』151号, 1995年9月, 16-17頁
- ・「『満洲工場統計速報』解題』『満洲工場統計速報』本の友社, 1996年, 2-7頁
- ・「私のゼミナール運営と学園祭」東京大学経友会『慶友』137号, 1997年2月, 125-129頁
- ・「戦前『満洲』の経済と社会—慶應大学のプロジェクト科目」近現代東北アジア研究会『NEWS LETTER』第9号, 1997年12月, 73-76頁
- ・「近代日本の戦争と居留民」慶應義塾大学通信教育部『三色旗』589号, 1997年4月, 15-20頁
- ・「第2次大戦期の経済・社会をどう見るか: 新しい研究潮流をめぐって』『唯物論研究年誌』3号, 唯物論研究協会, 1998年9月, 207-212頁
- ・「解説・帝国主義と植民地」(岡部牧夫共著)『帝国主義と植民地 展望日本歴史20』東京堂出版, 2001年, 1-12頁
- ・「コメント3 移民と植民』『帝国主義と植民地 展望日本歴史 20』東京堂出版, 2001年, 130-131頁
- ・「コメント4 投資と収奪』『帝国主義と植民地 展望日本歴史 20』, 180-181頁
- ・「コメント6 断絶と連続』『帝国主義と植民地 展望日本歴史 20』, 366-367頁
- ・「近代都市構造史研究会の活動と成果 その1—『近代日本都市史研究』刊行に寄せて—』『評論』日本経済評論社, 135号, 2003年2月, 6-9頁
- ・「文献紹介・大石嘉一郎『自由民権と大隈・松方財政』』『日本史文献事典』弘文堂, 2003年, 232頁
- ・「文献紹介・大石嘉一郎『近代日本の地方自治』』『日本史文献事典』弘文堂, 2003年, 232-233頁
- ・「文献紹介・大石嘉一郎『日本資本主義史論』』『日本史文献事典』弘文堂, 2003年, 233頁
- ・「文献紹介・柳沢渡『日本人の植民地経験』』『日本史文献事典』弘文堂, 2003年, 1274頁
- ・「特集に当たって—「帝国」と植民地—「大日本帝国」崩壊六十年—(森武磨との共著)『年報 日本

現代史』第10号, 2005年, 1-5頁

- ・「日本帝国主義による中国侵略と経済団体」慶應義塾大学『三田東北亜研究』第2巻, 金明洙韓国語訳, 2006年, 106-111頁
- ・「在『満』日本人」植民地文化学会・東北倫陥一四年史総編室編『「満州国とは何だったのか」小学館, 2008年, 第8章, 219-226頁
- ・「シンポジウム参加記—満州企業史研究の成果と課題—鈴木邦夫編『満州企業史研究』をめぐって—」『日本植民地研究』20号, 2008年, 49-52頁
- ・「大石嘉一郎先生の学問—近代日本地方自治史研究を中心に—」『東京』278号, 20-21頁
- ・「満鉄と大豆市場（国際ワークショップ 近代中国と満鉄）」『環東アジア研究センター年報』第4号, 2009年3月, 56-59頁
- ・「大学教育に今, 何が求められているのか; 石井潔氏インタビュー」『東京』324号, 2011年5月, 39-42頁
- ・「小川原宏幸氏インタビュー; 「韓国併合」100年とわたしたちの歴史認識」(山本公德との共著)『東京』316号, 2010年8・9月, 2-25頁
- ・「岡部牧夫氏の日本植民地研究」『日本植民地研究』23号, 2011年, 80-84頁
- ・「対談 高度成長への視座—シリーズ『高度成長の時代』から現代へ—」(大門正克との共著)『経済』195号, 2011年12月号, 107-119頁
- ・「はしがき」大門正克・柳沢遊他編『成長と冷戦への問い 高度成長の時代3』大月書店, 2011年, 11-14頁
- ・「解説」(木村健二との共著)『全国商工会議所関係資料 第Ⅱ期』雄松堂書店, 2011年, 9-18頁
- ・「近代日本における『福祉国家』の未成立—その理念と現実—」(慶應義塾大学通信教育部『三色旗』第777号, 2012年12月) 24-29頁
- ・「安田浩さんの歴史学方法論」追悼文集刊行委員会編『追悼安田浩 運動と学問』株式会社きかんし, 2012年12月, 372-374頁
- ・「現代日本における「知」の在り方とは何か; 大学教育の現状と課題から考える [特集] 上井喜彦埼玉大学学長インタビュー」『東京』342号, 2-24頁
- ・「特集 第一次大戦勃発100年から現代を問う; 浅田進史氏インタビュー」『東京』357号, 2014年8月, 2-23頁
- ・「序 特集・1940年代の地域社会と人の移動—日本帝国膨張・収縮期の地域社会—」『三田学会雑誌』107巻3号, 2014年10月, 1-10頁
- ・「日本国憲法の現在—戦後日本における憲法と『自衛権』論議の変遷」『総合人間学』第10号, 2016年, 125-133頁
- ・「序特集・韓国経済発展の歴史的条件—1960年代日本との比較を中心に—」『三田学会雑誌』109巻2号, 2016年7月, 1-3頁
- ・「歴史と記憶とオーラル・ヒストリー」(コメンテーター) 慶應義塾福沢研究センター『近代日本研究』33巻, 2016年, 312-315頁, 325頁